

## 「アビリティ実証都市研究会」キックオフセミナー

### (1)開催趣旨

(開催案内より)

アビリティ実証都市研究会とは、身体及び認知機能や能力(アビリティ)の回復、維持、向上、改善など広く健康を目的とし、その研究や技術、療法、製品などの効果や事業性などを検証、また研究開発や事業化、普及拡大の支援を行うための地域クラスター(拠点整備等)と国際連携を検討するものです。

食や運動、姿勢、整体、癒し、睡眠、代替医療、統合医療、融合医療など、現代の西洋医療だけではない健康増進の様々な技術や知識をサービスや製品、事業の実証と事業化、また身体機能拡張のロボットや認知機能拡張の AI に、医療や代替医療などのナレッジも組み合わせ、研究や実証、開発、事業化の支援を市民協働、公民連携、医療連携、医工連携など、地域共創で推進します。

こうした領域は、エビデンス(科学的根拠)などの立証が未成熟であるもの、医療などの制度や法律により活用が制限が加えられているもの、文化などの違いにより海外では普及しているものの日本国内での普及が出来ていないもの、研究途中であり様々な領域の知見や実証を必要とするもの、広く社会に知られていない事などが多くあります。しかし、未病対策や予防、健康増進は健康寿命を延ばし、医療費や社会保障費の増大を軽減することに結び付くことから、近年、公的にもその研究や産業化に注目が集まりつつあります。

また、こうした領域の療法や製品は、異分野の複数の組み合わせや、西洋医療との組み合わせ(統合医療や融合医療)により、その効果が拡大しイノベーションの創出のほか、コストが軽減することも想定されます。

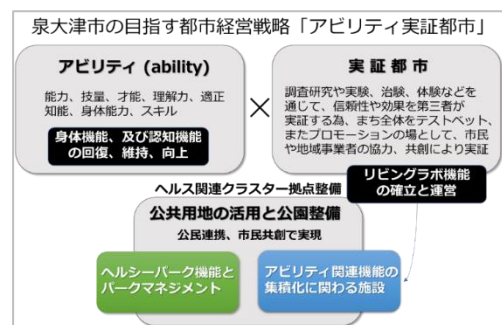
そのために国内外を含む広くオープンイノベーションの機会や実証する地域の協力や支援が重要となっており、国際連携や異分野の連携、地域との共創の環境を整備することが望まれています。

本研究会は、こうした連携の促進や環境整備を検討していくものです。また、その地域クラスターでの活動に伴い市民や地域内の就学就労者の健康寿命を延ばし、快適な市民生活や健康経営を実現するとともに、関連する研究機関や産業の誘致や創出、そして産業振興に結び付けていくためのリビングラボ機能や支援策なども検討していきます。

泉大津市では、こうしたアビリティの実証都市としての取組みを積極的に行っており、今後、集積拠点の整備(市民会館等跡地活用)なども公民連携で進めています。

また、この研究会活動を通じ、確立したアビリティの技術や製品、サービス、人材を泉大津ブランドにより国内外に水平展開することで持続的な地域経営と合わせて、人類の全てが健康な生活を実現できることに寄与する SDGs を目指しています。

アビリティ実証都市研究会では、市民協働、公民



連携、また異分野連携やビジネスマッチングによる地域共創型のアビリティ実証と R&D 支援、事業化など、産業振興のためのプラットフォーム(地域クラスター)を確立してまいります。

泉大津市とグローバルヘルスイニシャティブでは、アビリティ実証都市研究会のキックオフとして、第1部には「食と健康アビリティ」をテーマとした講演を、また第2部には、様々な分野のアビリティ関連研究や事業、支援策などの発表を以下の通り実施致します。

## (2)開催概要

「アビリティ実証都市研究会」キックオフセミナー

- ・テーマ : 第1部 食と健康アビリティ 講演 (オープンセミナー)  
第2部 多様なアビリティ研究、事業、支援策の発表  
第3部 交流会
- ・主催 : 泉大津市
- ・共催 : グローバルヘルスイニシャティブ(GHI) ※  
※事務局:公益財団法人都市活力研究所、大阪商工会議所、新産業文化創出研究所
- ・後援 : 近畿経済産業局、近畿農政局、大阪商工会議所、泉大津商工会議所
- ・日時 : 2019年1月15日(火) 13:00~17:10
- ・会場 : テクスピア大阪4階402会議室  
大阪府泉大津市旭町22-45 / 電話:0725-31-4402  
南海本線 泉大津駅から徒歩3分  
アクセス⇒<http://www.texpiaosaka.co.jp/access>
- ・参加費 : 無料
- ・参加者 : 174名
- ・対象 : アビリティ関連事業者、研究者、企業、その他ご関心のある方々

## (3)プログラム

第1部 基調講演 (テーマ「食の機能と健康アビリティ」)

- ・司会進行 松原 拓也 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

(13:00~13:10)

- ・ご挨拶「アビリティ実証都市の取組み(仮題)」 南出 賢一 氏 泉大津市長

(13:10~13:15)

- ・研究会コーディネーター「アビリティ実証都市研究会の考え方」

廣常啓一 株式会社新産業文化創出研究所 所長

(13:15~13:20)

- ・話題提供「健康、介護関連ロボットの国内外動向と健康ロボット研究について」

講師: 本田 幸夫 氏

大阪工業大学 R&D 工学部ロボット工学科 アクチュエータ研究室教授

大阪工業大学 ロボティクス&デザインセンターセンター長  
厚生労働省老健局介護ロボット担当参与  
日本医療研究開発機構ロボット介護機器開発・導入促進事業プロジェクト  
スーパーバイザー

(13:20～14:10)

- ・講演1 「食による予防医学と機能性おやつプロジェクト」  
講師：矢澤 一良 氏  
早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所  
ヘルスフード科学部門 研究院教授

(14:20～15:10)

- ・講演2 「高齢社会における栄養の役割～健康寿命の延伸にむけて～」  
講師：津田 謹輔 氏 帝塚山学院大学 学長 医学博士  
※基調講演では5分程度のディスカッション及び質疑応答

◎休憩 (15:10～15:20)

第2部 報告リレープレゼンテーション(7分以内×14機関程度) (15:20～17:10)

- テーマ その他のアビリティ全般と実証都市、また国際連携実現に向けた支援策」発表
- ・コーディネーター 「アビリティ実証都市研究会の進め方とグローバルヘルス」  
廣常啓一 株式会社新産業文化創出研究所 所長
  - ・発表 「認知症対策官民連携実証プロジェクトについて」  
日村 健二 氏 経済産業省 近畿経済産業局 地域経済部 バイオ・医療機器技術振興課 課長補佐
  - ・発表 「SDGsとしての途上国の健康支援と企業の国際展開」  
戸田 隆夫 氏 独立行政法人 国際協力機構 上級審議役
  - ・発表 「ウェルネス産業振興(仮題)」  
東 潤一 氏 大阪商工会議所 経済産業部 ライフサイエンス振興担当課長
  - ・発表 「SDGsから見たインドの予防保健とICTプラットフォーム」  
笹原 英司 氏 一般社団法人日本クラウドセキュリティアライアンス理事  
医薬学博士
  - ・発表 「神戸健康リサーチコンプレックスの進捗と展開」  
堀 洋 氏 国立研究開発法人理化学研究所 健康生き生き羅針盤  
リサーチコンプレックス推進プログラム連携促進コーディネーター 理学博士
  - ・発表 「睡眠の質の数値化と未病対策」  
古川 純一 氏 ジャスト株式会社 代表取締役
  - ・発表 「ブレインフード(健脳素材)としての大豆ペプチド」 仮題  
前淵 元宏 氏 不二製油株式会社 開発部門 企画室 博士(学術)
  - ・発表 「ガーナの栄養改善プロジェクトやベトナムの栄養制度創設とアビリティ実証」

栗脇 啓 氏 公益財団法人味の素ファンデーション シニアアドバイザー

- ・発表 「足の機能の重要性と支援技術としてのインソールの活用」  
那須 友和 氏 ネイシュー株式会社 代表取締役
- ・発表 「足の 3D 計測とデータ活用によるアビリティ支援」  
荒山 元秀 氏 株式会社ドリーム・ジーピー 代表取締役
- ・発表 「昆虫食の健康と SDGs への貢献」  
松井 崇 氏 株式会社昆虫食の entomo 代表取締役
- ・発表 「災害時における食用昆虫の有効活用」  
松井 欣也 氏 東大阪大学短期大学部 実践食物学科 准教授
- ・発表 「自転車を活用した健康アクティビティ」  
日本写真判定株式会社 事業戦略部 (※当日欠席)
- ・発表 「オリジナルエクササイズ『笑とれっち』」  
松下いづみ氏 笑いヨガスタジオ主催 ラフターヨガ (笑いヨガ)  
ティーチャー ストレッチトレーナー・健康管理士
- ・総括 石河 修 氏 泉大津市立病院 病院事業管理者 大阪市立大学名誉教授
- ・閉会挨拶 南出賢一 氏 泉大津市長
- ・終了後に会場で、交流会として名刺交換会を実施。

#### ○報告リレープレゼンテーションにおける主な議論・意見の内容

社会保障に頼らずに健康寿命を伸ばす取組みは重要である。このテーマで地域づくりを目指す泉大津市におけるインフラ整備や社会実装の応援をしたい。

発展途上国の健康問題は重大な局面にあり、日本の知見・技術にはその解決に大きく貢献するポテンシャルを持っている。健康問題への取組みは、国際貢献を果たすと同時にビジネスの拡大も叶えることができる。

ウェルネス産業は「健康状態に気づく」、「健康状態を変える」、「健康状態を維持する」という3つのステージが連携することがポイントとなる。泉大津市のアビリティタウンには、パッケージモデルを体現する場となって欲しい。

今後の世界的なテクノロジー改革を推進するには、二国間連携ではなく、多国間連携を行える場が必要であり、関西の泉大津市がその場となることを期待したい。

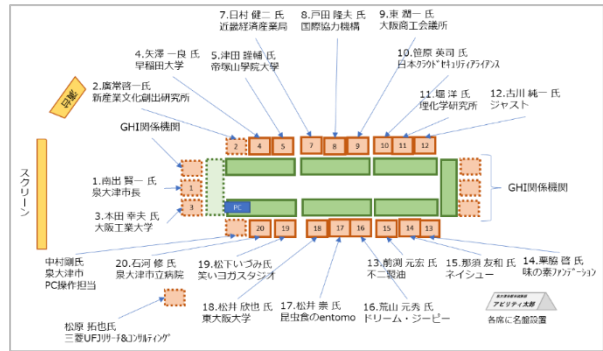
日本ではベンチャー企業に厳しい環境が多い中、泉大津市が目指す市民による実証実験を行える環境は、事業者にとって望ましい。

アビリティ実証都市研究会を通して、新商品の研究開発やテストマーケティングを実施したい。

#### (4)参加者

- 1) 参加人数 162名 + 泉大津市他関係者12名 計174名
- 2) 申込者と参加者の参加率 88%

○座席表



(7)開催風景



以上